

# 日本イエナプラン教育協会



## ニュースレター Vol.9 2011. 7月号

発行元: 日本イエナプラン教育協会

編集: 山崎 那菜

住所: 〒155-0033

東京都世田谷区代田6-3-22-202

TEL: 070-5559-0361 FAX: 03-3466-3439

HP: <http://www.japanenplan.org/>

mail: [Info@japanenplan.org](mailto:Info@japanenplan.org)

いよいよ、リヒテルズ直子氏の、夏の関東帰国講演がはじまります。(何かの試合みたいですが…)まだお席に余裕のある回もございますので、ぜひ足をお運びなって、イエナプラン教育を思いきり体感してみてくださいね。会場にて皆様にお会いできるのを楽しみにお待ちしております。編集(山崎)

### 第8回

#### よい教師とは、堂に入った『誘惑者』

協会代表 リヒテルズ直子

皆さんもよくご存じと思いますが、疲労感には、心地よいものと、何か後味が悪い、そのくせ燃え尽きてしまったようなものとふたつあります。

今日はなんだか授業が思い通りにいったなあ、子どもたちがみんな生き生きと勉強してくれたなあ、という時には前者、なんだかみんな不満そうな顔をして帰っていったなあという時には後者が残ることでしょう。

それでは、いったい、どんな時に子どもたちは満足そうにし、どんな教え方をすると子どもたちは不満で疲れてしまうのでしょうか。

多分、子ども自身が、自分の探求心を使い、しかも、授業の終わりに「今日はこれを学ぶことができた」「こんな新しいことを知った」「先生が自分をほめてくれた」「クラスの雰囲気良かった」と思える時には、あなたもきっと満足していることでしょう。そして、それとは反対の時、「今日はいったい何を学んだのか自分でもさっぱりわからない」「新しいことを学んだのだろうか」「先生は自分たちを注意ばかりして、気分が暗くなることばかりだった」「クラスメートたちはいつ先生に注意されるかひやひやして、みんなうつむいていた」という時には、どうしようもないほど疲れが残っているのではないのでしょうか。

子どもたち自身に心地よい疲労感を伴う学習ができた時には、先生にも心地よい疲労感が残り、子どもたちが不満と鬱屈した気持ちで帰っていったときには、先生の方にも後味の悪さが残る、、、

オランダのイエナプランの専門家たちは、よく、こんなことを言います。

「先生が疲れるのは良くない学校だ。それは、先生が前のめりになって何でもやらなくては、と生徒の先頭に立とうとして忙しすぎる学校だ。生徒たちみんなを「引っ張ろう」と必死になり、生徒が見えなくなってしまって、自分だけが責任の虜になっているのはいい学校ではない。それは、子どもたちの自主的な好奇心を奪い、学びの機会を奪い取っているだけだから。いいかい、理想的なイエナプラン校では、先生は、なにもしないで、子どもたちの様子を見ているんだよ。そして、子ども達が、全力を上げて学びに取り組むようにするのさ。1週間の学校の授業を終えて、ぐったりしてはいなくてはならないのは、子どもたちの方さ、先生は元気で満足してはいなくちゃ」

そして、前回は登場してもらったフレークさんが見せてくれるのは、教室の子どもたちが、誰一人としてぼんやり指示を待っているのではなく、どの子もみんなが忙しく勉強をしていて、それを、先生は、ポケットに両手を突っ込んで静かに見守るように眺めている、そういう写真です。

「ポケットに両手を突っ込んで」いる先生は、うわの空で窓の外を見ているわけではありません。子どもたちをしっかりと観察しています。子どもたちは、やるべき課題をみんな持っています。でも、みんな自立して学習に取り組んでいます。あるいは、子ども同士で協力して、問題を解決しようと努力しています。

私が「オランダの個別教育はなぜ成功したのか——イエナプラン教育に学ぶ」を書いていた時、そのモデルとして2週間通ったイエナプラン校がありました。そこにいるベテランのイエナプランの先生ルネは、教室でサークルを作って、子どもたちと一緒に演劇のシナリオを作ったり、インストラクションで教えたりするとき、とてもリラックスした表情で、子どもと同じ目線で話し合いのできる素敵な先生でした。



Photo: リヒテルズ直子

でも、授業の合間の中休みに職員室(といってもサロンのような雰囲気ですが)に戻ってくる先生を見てみると、その短い時間に、実にほっとしたような心からくつろいだ表情になるのです。そして、10分ほどの中休みが終わって、教室に入って行く時に、彼は、びりり、きりりとした緊張を感じさせる態度を見せるのです。

ルネにとって、教室で生徒と接している時間は、1分たりとも気の抜ける時間ではないのです。どの子どもも、どの数分も無駄にすることなく、学びに携わってられるように、映画の監督のように、あるいは、オーケストラの指揮者のように、みんなを動かしていかなくてはならないからです。

ああ、これが「専門」の教師なのだな、と思いました。

「さあこっちを向け」と怒鳴り声を挙げるのでもなく、教室のドアをガチャンとわざわざ音を立てて空けるのでもなく、子どもたちと同じ目線に立っているながら、実は、どの子どもにも配慮をしている。

ポケットに手をつっ込んでいる先生は、こうして、授業の時間、決して怠惰にしているのではなく、どの子どもにも目を向けながら、そのクラスのグループリーダーとしての責任を負っているのです。



Photo:リヒテルズ直子

2008年に、在日オランダ大使館の企画で、オランダの教育学の先生をお招きしてシンポジウムを開きました。その際に来ていただいたゲストの一人は、ルック・ステーヴェンス名誉教授といって、特別支援教育やインクルージョンのために、イエナプラン教育を始め、新教育のやり方を推奨されている有名な先生でした。オランダでも、学校の先生たちは、ステーヴェンス教授の講演に行くと、大変感動されることが多いのです。

さて、このステーヴェンス教授は、こんな言葉を言ったことで有名です。

「よい先生とは、堂に入った『誘惑者』だ」と。

「誘惑」と言えば、普通は、男性が女性を自分の魅力に引きつけていこうとする時の言葉ですね。ステーヴェンス教授は、つまり、こうしているのです。本当に子どもが学習をしたくてたまらなくなるくらいに誘惑できる、それが、専門の「教師」というものだ、と。

あなたが女性なら、どんな男性に惹かれますか？

あなたが男性なら、どんな女性に惹かれますか？

いつも疲れて小言を言い、口を開けばあなたを責めるようなことばかりをいう人に惹かれるはずありません。子どもに接し、子どもに『学ぶ』ことを教える人間が、人生を楽しみ、学ぶことを楽しんでいるかどうか、自分が今日も、明日も、あさっても、日を重ねるたびに何か新しいことを学んでいるかどうか、、、

誰かに惹かれる時というのは、その人の生き方に惹かれているのではありませんか。

ある私立大学の教授がこんなことを私に言いました。

「うちの大学のようなところに来る学生は、もともと一流の大学に行けるような子たちじゃないんですよ。そんな子どもたちに、学習意欲を沸かせよ、というのが無理なんですよ」と。

あらあら、大変、それでは子どもたちがかわいそう、、、そう思いました。

小学校から高校まで、ずっと試験試験に追い立てられるだけ、「わからないのか、そんなことも」と落ちこぼれてきた子供たちは、誰からも学びの楽しさを教えてもらってこなかったのです。そして挙句の果てに、高い授業料を払われ、その授業料のおかげで「大学教授」として仕事ができている教授たちが上のような言葉を吐くのです。いたい、小学校から大学まで、「教師」といわれる人たちは、何が専門のつもりなのでしょう？

大工さんが家づくり、詩人が詩づくりの専門ならば、教師という専門家は、人間づくりの専門家であって当然です。そして、その専門とは、まさに、子どもを「学習」に誘惑し、人間として生きること生きがいを見出せるように導くことであるはずですよ。

だから、「先生」という仕事を、どうか楽しんでやってください。

変な疲れ方をしているな、という時には、自分のやり方を少し距離を置いて見直してみてください。ポケットに手をつっ込んではいなくても、「うちのクラスの子どもたちは、誰一人として、どの1分も無駄にしていない」と胸を張って言えるように、、、。あなたががんばり、あなたが舞台の上に立つのではなく、子どもががんばる気になり、子どもたちが舞台の中心に立てるようにしてあげてください。

そして、人間として、子どもたちの先輩である大人として、いつも、世界に、歴史に目を開いていてください。そこに、尽きない学びの泉が湧き続けています。

## シリーズ ～サークル対話～

【シリーズ～サークル対話～】の第5回目を皆さまにお届け致します。今回はシリーズ最終回ということで、実際実践された方からの報告です。シリーズは終了ですが、みなさまの実践報告やご質問などございましたら、お気軽に『質問箱』コーナーにご投稿下さい。これから挑戦される方もぜひご参考になさって下さいね！

### サークル対話の進め方

リヒテルズ直子

この手引きは、サークル対話を進めるときの注意事項として、主に下記の参考資料をもとに記述したものです。筆者が日本の状況に照らして必要に応じて補足的な説明を施しています。ニュースレターでは4回に分けて、サークル対話についてシリーズをお届けします。

5回目(7月)号では、皆さんそれぞれの実践や経験(成功例や失敗談)をご紹介します。

- 1回目(3月):サークル対話をなぜするのか
- 2回目(4月):サークル対話にはどんなものがあるか
- 3回目(5月):サークル対話をうまく進めるための知恵と工夫
- 4回目(6月):サークル対話がうまくいかないのはどんな時?
- 5回目(7月):会員参加:サークル対話をやってみたら、、、?

参考資料(1～4回):

K.Both, "Jenaplan, Jenaplanonderwijs op weg naar de 21e eeuw", Nederlandse Jenaplan vereniging(NJPV), 1  
(ケース・ポット「イエナプラン、21世紀に向かうイエナプラン教育」オランダイエナプラン教育協会(NJPV))  
Ad W.Boes, "Gesprekken in de kring", Christelijk pedagogisch studiecentrum(CPS), ISBN 9065083049, pp.17-36  
(アド・W・ブース「サークルの中での対話」キリスト教教育研究センター)

## シリーズ第5回

### 5.【サークル対話をやってみたら・・・?】

#### 試行錯誤のサークル対話

高校講師 田村悠子

私がオランダ・イエナプラン教育と出会ってから5年が経とうとしています。20の原則をはじめとする、その教育観に感銘を受け「自分の授業でもできる事をやってみよう...。」と、サークル対話を取り入れてみたのが昨年度。しかし、自身の力不足もあり、サークル対話に四苦八苦する事もしばしばありました。

さて、今年度も「昨年度よりもじっくり考える時間を作って、可能な限り授業にサークル対話を取り入れてみよう!」と、スタートしたわけですが、実際には『う～ん』と悩む場面に出くわす事も多いです。

今回は、そんな私の『試行錯誤のサークル対話』の記録をご紹介します。

#### 【試行錯誤のサークル対話～5月編～】

新学期が始まって1ヶ月以上たちました。私は今年度、高校1年生と2年生の世界史を担当させて頂いています。7クラス受け持っているのと、この時期クラスのカラーなるものがはっきりと出てきて大変面白いです。それは、特にサークル対話の時に見ることができます。

授業で毎回サークル対話を取り入れている訳ではないのですが、ここまで『自己紹介』『なぜ世界史を学ぶのか』『帝国主義時代の英・仏・露の接近とその背景』『アッシリアとアケメネス朝ペルシアの比較』について、大・小のサークルを作って意見交換をしてきました。

1年生にとって、初めてのサークル対話は『自己紹介』。今回は、ここで起こった出来事をご紹介します。

「サークルを作ってみよう!」

私が声をかけると、1クラスは『何するんだろ?』とお互い顔を見合わせつつ、静かに動き始めました。もう1クラスは元気なクラスで、

「先生！何やるの！？フルーツバスケット？」

などと、キャイキャイ騒ぎつつ移動完了。

この2クラスでは、自己紹介も盛り上がり、その後のサークル対話も比較的上手くいつているように思います。『人の話を聞く』という点ではまだまだ課題があるとはいえ、生徒達がサークル対話に慣れ始め、“話し・聞く”という事の楽しさに少しずつ目覚めているような感触があります。

この2クラスとは別に、私は1年生をもう1クラス担当しているのですが、こちらは出だしから強烈でした。印象としては、とても大人しいクラスです。一斉授業をやっている時なんて、あまりにシーンとしてしまい、私がドキドキする始末。質問を投げかけても返ってくる答えは『特にありません。』『分かりません。』だったりします。ですから、私もジーンと待つ事が多いのです。

最初の自己紹介サークルは、サークルを作るのに20分かかりました。生徒同士が顔を見合わせ、目と目で『動く？移動していいのかな?』とお互い無言で会話をしていたり、ある子がぼそっと

「移動とかしなくていいし。めんどくさい。」

とつぶやくと、その後カチーンとクラスが固まってしまう動かなくなってしまうたり...と、こんな感じです。やっとこさサークルになった後、私が3つのテーマを提示しました。

- 1: 四次元ポケットを手に入れたら、何の道具を使いたい？
- 2: お弁当に入っていると嬉しいおかず。
- 3: 今、ハマっている物・事

この中からどれか1つ、自分の好きなテーマを選び、名前と共に語ってもらおうという方式をとったのですが...。最初の子が1番を選んだところ、続けて8人くらいが全く同じテーマを選んで、しかも同じ答えを返してきたのでした。こんな事は滅多にある事ではないので、私から一言、

「みんなと同じでなくても大丈夫。本当に自分が話したいと思うものを選んで、語りたい事を語ってね。ここをそういう場にしたいと思う。」

と伝えましたが、ついに最後の40人目まで全員が同じ自己紹介で終わりました。サークル対話もやらされている感が溢れギクシャクしてしまい、自分の力不足を実感した1時間となったのでした。

さて、この次の時間もまたサークル対話からのスタート。前回のサークルでどんな事を感じた?という話から始まったのですが、

「何のために輪になるのか分からない。いつものやり方でも話し合いはできる。」

「人の話を聞いているのは大丈夫だけど、自分が話す番になると何を話していいか頭が真っ白になる」

などという意見が出たので、調度この日のテーマ『なぜ世界史を学ぶのか』私自身の考えと、授業でどうしてサークル対話を取り入れたいのかを話してみました。

その後、他のクラスよりずっと発言が控えめではありますが、回を重ねて少しずつ少しずつ対話が出来始めています。サークルも10分あれば作れるようになってきました。



「こんな時、オランダの先生達は どうしてるんだろうな？他の同僚だったらどうするだろう？」

自問自答しながら、今年も少しずつサークル対話を始めました。そういえば、今の2年生も去年の今頃はサークルになる事に対して『考えるのが面倒くさい』などとブーブー言っていたのを思い出します。

その子達は今、サークル対話にも慣れ、活発に意見を交換できるようになっている。だから、大丈夫・大丈夫！サークルも練習・練習！と自分に言い聞かせ今年度の目標を立てました。『去年よりも対話と考える機会を増やす。』目標に向けて頑張りたいです。

#### 【試行錯誤のサークル対話～7月編～】

5月の記録から約2ヶ月。1年生は『第一次世界大戦』に突入し、じっくり‘考える’時間が増えました。『なぜ、世界大戦へと発展したのか？』『大戦は止められなかったのか？』『大量殺戮兵器が生まれた背景とは？』『戦争は科学を発展させるのか？』など、クラスによっては生徒の側からテーマを出してくれて、大・小のサークルになって意見交換をしました。

4月当初、あの、静かだったクラスも『今考え中』『もっと他の意見を聞いてみたい』『言わせて！』などいくつかカードを作ってサークルに臨むようになったところ、意見が出てくるようになってきました。

そんな中、1学期も終わりに近づいたある日、私は自分の授業アンケートをとってみました。すると、1年生で書き込みが一番多かった項目はサークル対話。以下、子ども達からのサークル対話への意見や感想の一部です。

#### 【意見・感想】

・みんな意外と真面目に考えている事が分かってびっくりした。真面目でいるのって恥ずかしかったからわざと茶化したりしてたんだけど、あー、これでいいんだって思った。

・輪になるのが今も面倒。机とか椅子とか動かさないと出来ないのかな～？とか思う時がある。でも、輪になってみんなの顔を見た方が良いとも感じています。

・先生と同じ意見じゃなくてもいいんだ。正解って別にないんだ。って事に驚いた。

・色々な考え方があるな～。これ、絶対無理！って考えの人が、どうしてそんな風に考えたのか気になる。今度聞いてみようと思った。

・私は戦争は絶対反対。でも、第一次世界大戦があるから今があるんだって考えている人がすごく多くて、びっくりした。過去だから言える事じゃないの？戦争を肯定していいの？

・まだ、私にとって意見を言うという事は大変です。でも、人の意見を聞くのは楽しい。

・私は最初サークルは嫌いでした。今は苦手くらいになりました。普通授業の方が好きです。

・最初、寝れないじゃん！この授業ー！って思ったけど、やってみたら意外と楽しかった。自分が話している時に誰かに邪魔されたりするとムカツとして、【聞く】事の大切さも分かりました。

・教科書だけが正しい訳じゃないんですね。他国の歴史観も知りたいな～。

・何が正しいのか・間違っているのか分からなくなって、でもそれが面白い。

・2学期もサークル楽しみにしています。

アンケートのサークル対話の欄、白紙の子ももちろんいましたけれど、ほとんどの子が何らかのメッセージを書き込んでくれた…。今の私にはそれが一番うれしいです！2学期はどんな事をしてみようか？ワクワクしています。



★リヒテルズ直子氏講演・ワークショップのお知らせ★  
春に開催延期となりました関東での講演・ワークショップのお知らせです。  
どうぞ、みなさまお誘いあわせのうえご参加ください！

埼玉支部 [saitama@japanjenaplan.org](mailto:saitama@japanjenaplan.org)

『オランダ・イエナプラン教育ワークショップin埼玉』

子どもも大人も幸せになれる、オランダ・イエナプラン教育のグループリーダーのあり方

【日時】7月27日(水)19時～21時

【場所】さいたま市立桜木公民館(大宮駅徒歩5分)

【講師】リヒテルズ直子氏

【参加費】2500円(大学生以下2000円)

【詳細・お申し込み】<http://kokucheese.com/event/index/13699>

★次のページに続きます

**千葉支部** [chiba@japanienaplan.org](mailto:chiba@japanienaplan.org)

**『子どもと大人も幸せになろう!』～イエナプラン入門ワークショップ～**

【日時】7月30日(土)13時半～17時

【場所】浦安市民プラザwave101(新浦安駅徒歩1分)

【講師】リヒテルズ直子氏

【参加費】2000円(大学生以下1500円)

【詳細・お申し込み】<http://kokucheese.com/event/index/14061/>

**ほんの木未来塾**

**講演会『祖国よ、安心と幸せの国になれ』**

【日時】8月1日(月)18時

【場所】ちよだプラットフォーム スクエア

【お申し込み】tel:03-32913011, fax:03-32951080, メール:info@honnoki.co.jp

**EFC・日本イエナプラン教育協会**

**ワークショップ『先生の学校』**

～オランダイエナプラン校のリズミカルな1日を体感～

【日時】8月4日(木)10時～16時30分

【場所】豊島区立舞台芸術交流センター あうるすぽっと3F会議室B

【講師】リヒテルズ直子氏

【参加費】5000円(EFC、日本イエナプラン教育協会の会員は4500円)

【詳細・お申込み】

**教室『学びあい』フォーラム**

**教室『学びあい』フォーラム2011in東京**

**教師も子どもも元気になろう!今こそ『学びあい』講演**

『幸せな未来は幸せな子どもたちから～子供の幸福度世界一、共生社会のオランダに学ぶ』

【日時】8月6～7日(リヒテルズ直子氏の講演は6日12:40～17:00)

【場所】国立代々木オリンピック記念青少年総合センター

【講師】西川純氏・リヒテルズ直子氏

【参加費】(小・中・高校生は無料)

一般 2日間通し:通常6,000円(早割5,000円)、1日のみ:4,000円

学生 2日間通し:通常4,500円(早割なし)、1日のみ:3,000円

**第4回イエナカフェ報告**

千葉支部 山田順子

今回は何とも不思議な会合でした。前回(2月例会)は14人集まって、ワイワイ盛り上がり、次が楽しみ～な雰囲気だったのですが、3月11日の地震で延期になり、ようやく開催できたのが6月25日。

参加者はスタッフ3名+斎藤さんという打ち合わせにも参加して下さった日本イエナプラン会員の 方のみ。あれれ～?とびっくり。広報担当の私は真っ青です。もしかして連絡が届いてないのかな?知らせたはずだけど、そう言えば欠席の連絡もなかったし...不安と反省の中でスタートしました。

今回のメニューは、①前回の続き「イエナプラン20の原則」の後半部分を読むこと。②プランの英語版から気付いたことを話し合う。③オランダツアーに参加した斎藤さんの報告。

参加者ゼロということで、急遽③のオランダ報告にじっくり時間をとることに。プロジェクターとスクリーンを

用意しておいて良かった！ 沢山写真も拝見し、かなりのハード(密度の濃い)スケジュールでワークショップづけの毎日だったようですが、全く疲れなくて楽しかったとのこと。  
イエナプラン教師養成？ 支援体制(場と人)が整っているようです。

続いて30日のリヒテルズさん来日講演会の打ち合わせ。今回は講演会というよりワークショップ中心なので、舞台のあるホールよりフラットな会場の方が良いだろうと練習室に決定。

次の話題は浦安市の協働事業提案について。昨年からはまった協働事業ですが、必要性が認められれば年間500万円の事業費が出ます。そこで放課後無料塾でイエナプランにトライできたら良いなあと話はずみ、7月1日の説明会に参加しました。強い思いさえあれば可能だと思いました。

私事ながら、この日母が亡くなりました。忘れられない日に。



### ★【リヒテルズ直子さんへのご質問】を募集しています。

オランダの教育・社会について、リヒテルズさんに聞いてみたいことはありませんか？ 講演やワークショップのご感想や、もっと詳しく知りたいこと、素朴な疑問など、ご意見など、ぜひお聞かせ下さい。

ご質問をお送り頂く際は、件名に「質問箱」とお書きの上 [info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org) までお送り下さい。

※紙面の都合上、頂いたご報告やご質問をこちらで編集することがあることをご了承下さい。

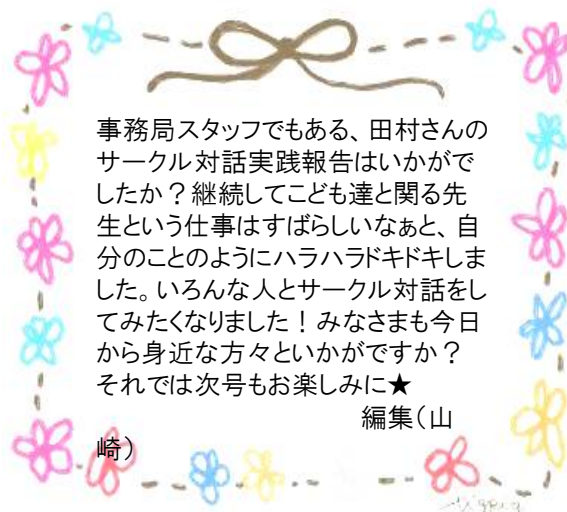
皆さまからのお便りをお待ちしております。

### ★ニュースレターへのご意見ご感想をお待ちしております。

より良いニュースレターの制作のためにも、みなさまのご意見ご感想を [info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org) までお寄せ下さい。心よりお待ちしております。

### ★各支部のご案内

- 東京支部 [info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)
- 千葉支部 [chiba@japanjenaplan.org](mailto:chiba@japanjenaplan.org)
- 埼玉支部 [saitama@japanjenaplan.org](mailto:saitama@japanjenaplan.org)
- 京都支部 [kyoto@japanjenaplan.org](mailto:kyoto@japanjenaplan.org)
- 福岡支部 [fukuoka@japanjenaplan.org](mailto:fukuoka@japanjenaplan.org)



事務局スタッフでもある、田村さんのサークル対話実践報告はいかがでしたか？ 継続して子ども達と関る先生という仕事は素晴らしいなあと、自分のことのようにハラハラドキドキしました。いろんな人とサークル対話をしてみたくまりました！ みなさまも今日から身近な方々といかがですか？ それでは次号もお楽しみに★

編集(山

崎)